

## 産後疼痛の管理に対するオステオパシー手技療法の効果

Victoria Hastings, MPH, OMS IV ; Adrienne Marie  
McCallister, DO; Sarah A, Curtis, DO;  
Roseanna J, Valant, DO; Sheldon Yao, DO

### 抄録

背景：疼痛は、米国の女性において産後に訴える最も一般的な症状の一つで、その疼痛の場所は様々である。産後の疼痛に対する介入戦略の研究はこれまで主に腰部に焦点を当ててきたが、その他のタイプの産後の疼痛管理は不透明なままである。

目的：産後疼痛に対してオステオパシー手技療法 (OMT) の効果を調べること；疼痛の場所、質、タイミング、経膣分娩と帝王切開による分娩との疼痛の違いに関して。

方法：産後疼痛を訴える患者がニューヨーク州ブロンクスにある聖バルナバ病院においてリクルートされた。簡易版マクギル疼痛質問表が、スクリーニングアンケートと共に使用された。神経筋骨格医学とオステオパシー手技医学を学ぶ 2 年または 3 年目の研修医が患者を検査し、続いて診断ならびに体性機能障害に対する約 25 分間の OMT 管理を行った。そして再び簡易版マクギル疼痛質問表が OMT 後に実施された。OMT 前後の変化を分析するにあたり、連続変数には対応のある t 検定が、カテゴリー変数にはマクネマー検定が使用された。経膣分娩と帝王切開分娩による患者間の視覚的アナログスケール (VAS) 疼痛スコアの差異は分散分析、疼痛領域のグループによる違いはピアソン  $\chi^2$  テストが使用され検証された。

結果：計 59 人の患者が研究に組み入れられた。疼痛に対する VAS スコアの平均は、OMT 前が 5.0、OMT 後が 2.9 であった ( $P < .001$ )。OMT 前の VAS スコアは、経膣分娩と帝王切開分娩の患者の間において有意に異なっていたが ( $P < .001$ )、VAS スコアの平均的な減少は、両方のグループで同様だった。OMT 後に、腰痛 (OMT 前 3.4 [57.6%]、OMT 後 1.6 [27.1%])、腹痛 (OMT 前 3.2 [54.2%]、OMT 後 2.2 [37.3%])、膣の痛み (OMT 前 1.1 [18.6%]、OMT 後 0.5 [8.5%]) が減少したことが報告された。 ( $P < .05$ )

結論：予備段階の結果は、OMT が分娩後疼痛管理に有効であることを示している。対照群の

欠如が、因果関係の主張を行う可能性を妨げている。OMT の有用性と一般化可能性を固める  
為に今後の研究が必要とされる。

#### 原論文

Efficacy of Osteopathic Manipulative Treatment for Management of Postpartum Pain

Victoria Hastings, MPH, OMS IV; Adrienne Marie McCallister, DO; Sarah A, Curtis, DO;

Roseanna J, Valant, DO; Sheldon Yao, DO

The Journal of American Osteopathic Association, August 2016, Vol. 116, 502-509

翻訳者：松村暁、MRO(J)

